

所属名	事務事業名	ページ番号
循環型社会推進課	バイオマス産業都市構築推進事業	2
循環型社会推進課	可燃ごみ等収集運搬事業	3
循環型社会推進課	不燃ごみ収集運搬事業	4
循環型社会推進課	粗大ごみ収集運搬事業	5
循環型社会推進課	ビン・缶類収集運搬事業	6
循環型社会推進課	清掃工場維持管理運営事業	7
循環型社会推進課	蛍光灯処理事業	8
循環型社会推進課	清掃工場施設整備事業	9
循環型社会推進課	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	10
循環型社会推進課	被災家屋等災害廃棄物処理事業	11
循環型社会推進課	新型コロナウイルス感染予防支援事業	12
循環型社会推進課	新型コロナウイルス感染症対策に係る備蓄品整備事業	13
循環型社会推進課	漂着物等災害廃棄物処理事業	14
循環型社会推進課	最終処分場維持管理事業	15
循環型社会推進課	有価物処理事業	16
循環型社会推進課	リサイクル工場維持管理運営事業	17
循環型社会推進課	廃食用油リサイクル事業	18
循環型社会推進課	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	19
循環型社会推進課	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	20
循環型社会推進課	ごみ減量啓発事業	21
循環型社会推進課	有料指定袋事業	22
循環型社会推進課	資源物集団回収奨励事業	23
循環型社会推進課	容器包装リサイクル法関連業務	24
循環型社会推進課	ごみ減量・リサイクル推進事業	25
循環型社会推進課	不法投棄防止対策経費	26
循環型社会推進課	ごみステーション適正管理経費	27
循環型社会推進課	事業系ごみリサイクル推進事業	28
循環型社会推進課	次世代型バイオ燃料実用化事業	29
循環型社会推進課	テイクアウト用レジ袋削減事業	30
循環型社会推進課	廃食用油リサイクル啓発事業	31
循環型社会推進課	エコプラザ管理運営事業	32

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	バイオマス産業都市構築推進事業	事業期間	令和 2 ~ 令和 2 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	本市が清掃工場北側に整備していた藻類産業拠点地（約21ha）を事業用地として民間企業に売却するにあたり、売却に至るまでの期間について当該土地の適切な維持管理等を行う。				
事業の対象者	事業用地（藻類産業拠点地：21ha）				
令和2年度 主な活動実績	・土地の維持管理（除草）等				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,310				
うち佐賀市の負担額	6,310				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
除草面積						ha
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
21						

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
当該事業用地の売却が完了したことから、本事業は終了する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

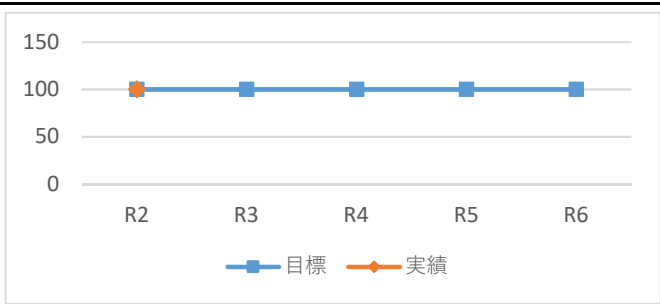
事務事業名	可燃ごみ等収集運搬事業	事業期間	昭和 46 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

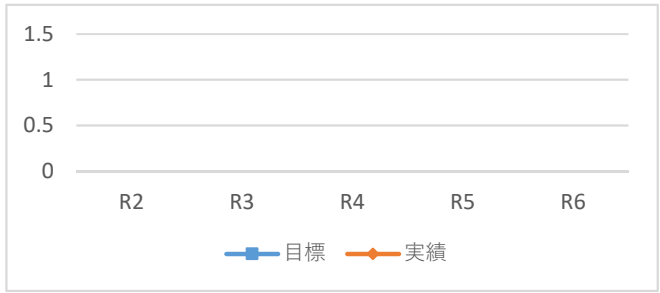
事業概要・目的	「旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」に設置されているごみステーションに排出される「可燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」の居住者				
令和2年度 主な活動実績	旧佐賀市内の26のブロック、旧久保田町以外の支所管内のごみステーションに排出される「可燃ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	283,829				
うち佐賀市の 負担額	198,041				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
可燃ごみの適正収集率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	



成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
「可燃ごみ」について、適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

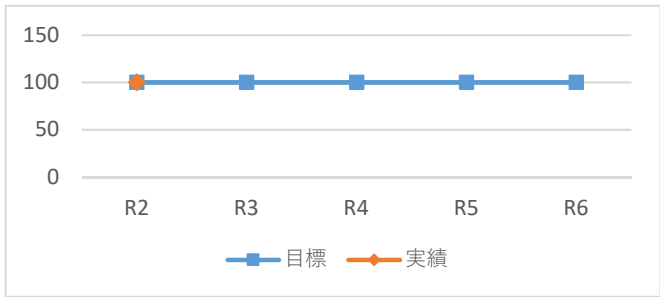
事務事業名	不燃ごみ収集運搬事業	事業期間	昭和 43 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

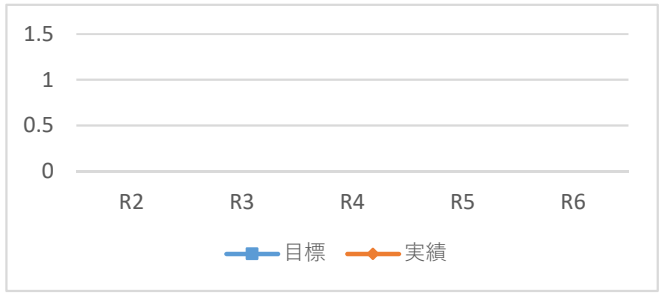
事業概要・目的	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和2年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	40,146				
うち佐賀市の 負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
不燃ごみの適正収集率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	



成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
「不燃ごみ」について、適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	粗大ごみ収集運搬事業	事業期間	平成 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「粗大ごみ」を清掃工場へ直接搬入して処理することが困難な市民のため、「ステッカー方式」又は「臨時収集方式」により、「粗大ごみ」を適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和2年度 主な活動実績	「ステッカー方式」及び「臨時収集方式」によって、個別に収集を行う。 「ステッカー方式」では、毎月25日までに市内の金融機関で1個あたり500円のステッカーを購入してもらうことにより、翌月の指定日に収集する。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	21,500				
うち佐賀市の負担額	5,681				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
粗大ごみの適正収集					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
「粗大ごみ」について、適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ビン・缶類収集運搬事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託して収集する。				
事業の対象者	市内居住者				
令和2年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	99,942				
うち佐賀市の 負担額	99,942				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
資源ごみの適正収集率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100	100	100	100	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載

成果目標達成に向けた対応策等
「資源物」について、適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場維持管理運営事業	事業期間	平成 14 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場は、本市における可燃ごみの「適正な焼却」と「減容化」を行う主体となる施設である。その運営管理は民間事業者へ委託し、「効果的」かつ「効率的」に業務を実施する。 適正に「運営管理」と「施設の維持・管理」を行うことにより、焼却時に発生する有害物質を規制値内に抑えとともに、必要な施設機能を維持する。				
事業の対象者	佐賀市清掃工場焼却施設				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市清掃工場運営業務委託 ・佐賀市清掃工場定期点検整備 ・各種設備の法定点検の受審 ・各種環境基準への排出抑制の証明となる計量測定の業務委託 ・焼却灰セメント資源化処理業務委託 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,027,331				
うち佐賀市の負担額	672,042				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
焼却量					t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
70,113	73,183	73,188	73,193	73,198	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
施設の老朽化が進んでいることと、コロナ禍の影響によるごみの質と量の変動が維持管理上の懸念であるが、プラントメーカーとの協議と情報共有により適正な維持管理を継続する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	蛍光管処理事業	事業期間	昭和 59 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内で収集された使用済み蛍光管について、蛍光管に使用されている各種材料や水銀を適切かつ一体的に処理するシステムを構築している民間事業者へ委託することで適正に処理する。				
事業の対象者	本市内で発生し、収集された廃蛍光管				
令和2年度 主な活動実績	民間事業者へ委託し、廃蛍光管を適正に処理				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,547				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
蛍光管の処理量					kg
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
10,390	10,380	10,370	10,360	10,350	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
新規リサイクルシステムの動向調査や委託料の精査などを行いながら、適正に処理を行う。

令和3年度 公共事業進捗報告シート

公共事業名	清掃工場施設整備事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 公共事業の基本情報

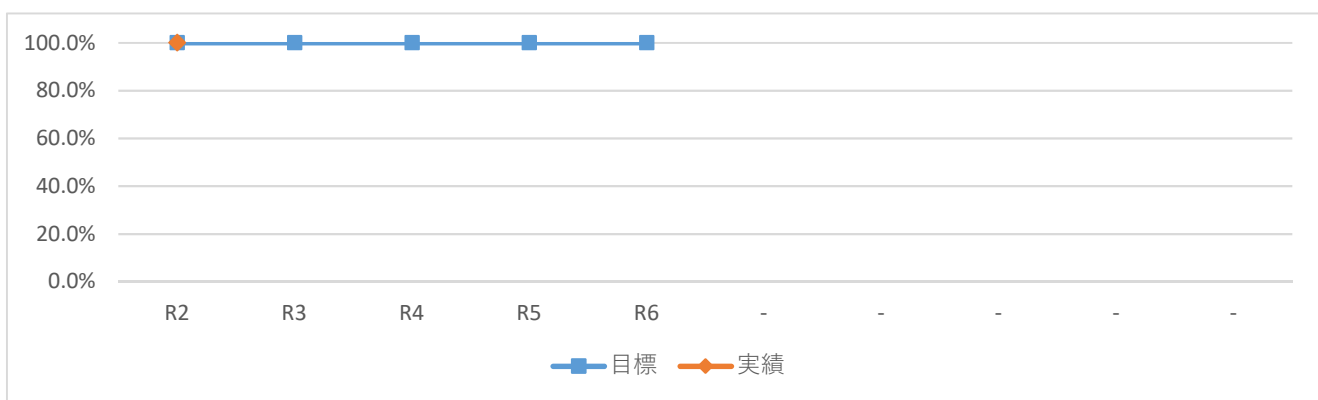
整備概要	清掃工場及び関連施設において、当該年度に生じた所要の整備を実施する。
整備の目的	清掃工場及び関連施設について所要の整備を行い、環境整備や機能維持を図る。

事業費決算（単位 千円） ※職員人件費は含まない

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
工事請負費	23,655				
測量・監理等委託料					
用地購入費					
補償費					
その他事務費等					
計	23,655	0	0	0	0
うち佐賀市の負担	23,655				
区分	年度	年度	年度	年度	合計
工事請負費					23,655
測量・監理等委託料					0
用地購入費					0
補償費					0
その他事務費等					0
計	0	0	0	0	23,655
うち佐賀市の負担					23,655

2 事業の進捗率

R2	R3	R4	R5	R6					
目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
100.0%									



令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	事業期間	平成 28 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場において可燃ごみの焼却時に排出されるガスから二酸化炭素を抽出し、需要家（3者）へ供給を行うことで、本市の増収及び二酸化炭素の排出量削減を図る。 二酸化炭素の抽出及び供給を安定して行うため、設備の維持管理と所要の薬剤購入等を行う。				
事業の対象者	二酸化炭素需要家				
令和2年度 主な活動実績	清掃工場周辺の需要家（ゆめファーム全農SAGA、（株）アルビータ、グリーンラボ）へ二酸化炭素の供給を行った。 供給量：113,172Nm ³				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	25,297				
うち佐賀市の負担額	25,297				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
二酸化炭素供給量						日
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
222	222	222	222	222		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
令和2年度は、「設備（リポイラドレンポンプ）の不具合」や、「冬季における凍結の影響」により設備が停止し、安定的な供給ができない状況が発生した。今後は、ポンプの2系統化や凍結対策を施すことなどにより、より安定的な運転を図る。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	被災家屋等災害廃棄物処理事業	事業期間	令和 1 ~ 令和 2 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	令和元年8月豪雨により被災した損壊家屋等について、解体及び処分を実施することにより、生活環境保全上の支障の除去、二次災害の防止等を行う。				
事業の対象者	令和元年8月豪雨の被災者				
根拠法令等	災害等廃棄物処理事業費補助金交付要綱、令和元年8月豪雨による損壊家屋等の撤去事業実施要綱				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	3,653				
うち佐賀市の負担額	3,653				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
損壊家屋等の撤去数					軒
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
1					

活動実績②					単位
損壊家屋等の撤去量					t
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
160					

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

本事業は、令和2年10月初旬に、佐賀県佐賀土木事務所から当該地区における「砂防ダム」の建設計画についての説明を受け、当該「砂防ダム」の事業計画区域内に、本事業において解体することを予定していた被災家屋3軒のうち2軒が含まれることが判明した。

環境省及び佐賀土木事務所等の関係者と協議した結果、本事業は「砂防ダム」の事業計画区域内に含まれない家屋1軒について対応した。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	新型コロナウイルス感染予防支援事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	本市のライフラインを支える上で必要不可欠な業務を担っている「一般廃棄物処理業許可業者等」に対し、マスクや消毒液等を調達・配布することで新型コロナウイルス感染症予防の支援を行う。				
事業の対象者	一般廃棄物処理業（ごみ）許可業者等				
根拠法令等	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	5,384				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
一般廃棄物処理業（ごみ）許可業者等					事業所	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
46						
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>一般廃棄物収集運搬にかかる許可業者等に対し、新型コロナウイルス感染症予防対策としてマスクや消毒液等を調達し、これらの事業者へ配布することによって、ごみの収集・運搬・処理が安全かつ安定的に行われるよう図った。</p>
--

令和3年度 事務事業実績報告シート

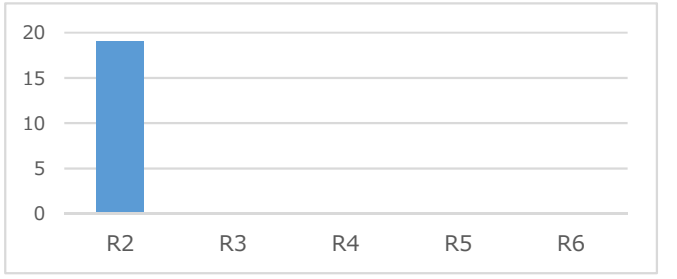
事務事業名	新型コロナウイルス感染症対策に係る備蓄品整備事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報


事業概要・目的	新型コロナウイルス感染予防を図るため、佐賀市清掃工場で一般廃棄物（ごみ）の処理を行う際に使用するマスク等の備蓄品を整備することにより、ライフラインとしての機能を維持し、安定的な業務の遂行を図る。 廃棄物処理業務における新型コロナウイルス感染症対策に係る備蓄品（約6か月分）の調達及び整備を行う。				
事業の対象者	市清掃工場作業従事者				
根拠法令等	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	1,136				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
作業従事者					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
19					



活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

佐賀市清掃工場において一般廃棄物の処理を行う際に使用する「マスク」、「防護服」、「消毒液」等を備蓄することにより、職員が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防し、ライフラインを担う廃棄物処理行政の機能を維持し安定的な業務遂行を図った。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	漂着物等災害廃棄物処理事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	令和2年8月豪雨の影響で県が管理する海岸へ漂着したごみ（葦くず類）を、焼却処理するため清掃工場へ運搬する。 令和2年度は、当該漂着ごみが海水由来の塩分を含んでいることから、塩分濃度を低下させるために「佐賀市一般廃棄物最終処分場」に仮置きし、雨ざらしを行った。				
事業の対象者	海岸管理者（佐賀県）				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	0				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
漂着物の処理量					t	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
0						
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

当該漂着ごみに含まれる塩分濃度を低下させるための「雨ざらし」に相当の期間を要するため、当該ごみの清掃工場への運搬と焼却処理は、令和3年度に実施する。
--

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	最終処分場維持管理事業	事業期間	昭和 56 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市一般廃棄物最終処分場は、本市における「一般廃棄物」の最終的な処分を行う主体となる施設である。その運転管理は、「株式会社佐賀資源化センター」（本市との第3セクター方式）に委託し、「効果的」かつ「効率的」に業務を実施する。				
事業の対象者	最終処分場（埋立地及び浸出水処理施設）				
令和2年度主な活動実績	不燃残さ等を適正に最終処分（埋立て）するとともに、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類等について適切に維持管理を行った。 ○埋立て量：2,738t				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	36,383				
うち佐賀市の負担額	36,383				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
最終処分量（埋立量）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,738	2,733	2,728	2,723	2,718		

年度	目標	実績
R2	2738	
R3	2733	2733
R4	2728	
R5	2723	
R6	2718	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
今後も、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類について適切に維持管理を行い、安定的に事業を継続するとともに、埋立量の縮減に繋がる事業や取り組みについて検討を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有価物処理事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	最終処分場に搬入された資源物（ビン、缶類）についての「選別業務」及び選別した有価物の「売却業務」を、第3セクター企業（株式会社佐賀資源化センター）に委託して実施する。				
事業の対象者	最終処分場に搬入された資源物（ビン・缶類）				
令和2年度 主な活動実績	有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減を図った。 ○選別した有価物の量：2,060.9t				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	75,900				
うち佐賀市の負担額	75,900				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
選別した有価物の量（ビン・缶）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2060.9	2,062	2,063	2,064	2,065		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
今後とも、有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減につなげる。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	リサイクル工場維持管理運営事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	リサイクル工場は、本市において発生した「ペットボトル」、「不燃ごみ」、「紙・布類」、「粗大ごみ」等の選別業務を実施する上で主体となる施設である。その運転管理は民間事業者へ委託し、「効果的」かつ「効率的」に業務を実施する。また、施設の設備について適切に整備し、安全な操業を行う。				
事業の対象者	リサイクル工場				
令和2年度 主な活動実績	○リサイクル工場運転業務委託 リサイクル工場に搬入される不燃ごみを選別し、有価物を搬出した。 【搬入量】 不燃ごみ：1855 t 粗大ごみ：460 t ペットボトル：581 t 紙・布：3201 t ○リサイクル工場定期点検整備 リサイクル工場の運営に必要な設備の整備を行い、適正な状態を保っている。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	86,792				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物搬出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
4,554	4,500	4,501	4,502	4,503		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
施設内の設備について適正な維持管理を継続しながら、委託している民間事業者との連携を深めることで、より効率的なリサイクル体制の構築を目指す。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

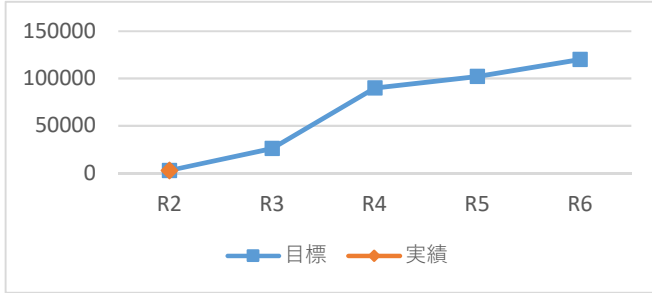
事務事業名	廃食用油リサイクル事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内から排出される廃食用油を、各種公共施設やスーパー等に設置した回収ボックス及び市内事業所から定期的に回収し、清掃工場敷地内の廃食用油再生プラントで高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）に精製することで、脱炭素社会へ貢献する。なお、精製した燃料は市営バス及びごみ収集車等の燃料として利用することで、地域資源循環による再生可能エネルギーの利活用を推進する。				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内事業所				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・民間委託による廃食用油再生（HiBD精製）業務 ・精製プラントの維持管理業務 ・廃食用油の保管管理業務 ・回収した廃食用油の異物除去業務 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	7,815				
うち佐賀市の負担額	6,467				

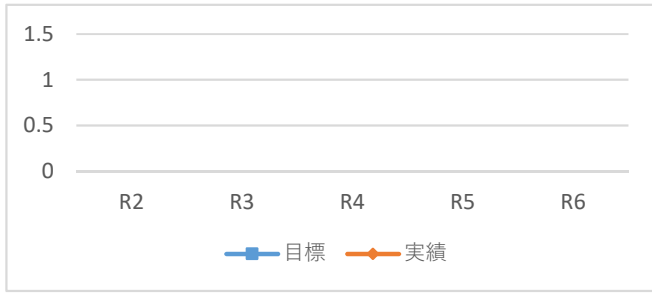
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）精製量					ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
2,805	26,000	90,000	102,000	120,000	



年度	目標 (ℓ)	実績 (ℓ)
R2	0	2,805
R3	26,000	26,000
R4	90,000	~80,000
R5	102,000	~90,000
R6	120,000	~110,000

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
<p>精製施設の24時間運転が実現すれば、精製量の増加が図れるが、夜間の運転管理体制整備（無人化プログラムの構築）や製品タンクの容量等について、課題が残っている。また、更なる収率向上を目指した精製技術の研究も必要である。</p> <p>今後とも目標達成に向け各種課題の解決、関係機関との調整を進める。</p>

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	事業期間	昭和 51 ～	年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	20持続可能な循環型社会の構築		
	基本事業	ごみの適正処理		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	現在、旧諸富町及び旧三瀬村から排出される一般廃棄物は、「脊振共同塵芥処理組合（一部事務組合）」において処理していることから、その処理にかかる負担金を支払う。				
事業の対象者	諸富町及び三瀬地区内居住者が排出した一般廃棄物				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	140,911				
うち佐賀市の負担額	135,911				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
一般廃棄物の処理量（旧諸富町及び旧三瀬村）					t
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
2,452					
活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>・脊振共同塵芥処理組合の処理施設は、令和5年度まで稼働する計画であり、令和6年度以降の諸富町及び三瀬地区のごみ処理は、本市が単独で実施する予定となっている。</p>

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	家庭から排出される燃えるごみの約4割を占める生ごみを中心に、3Rの中で最も優先順位の高いリデュースに特化した事業を展開することで、バイオマス資源である生ごみ等の有効活用を図り、地域資源循環型社会及び脱炭素社会の構築に寄与する。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用生ごみ処理容器等の購入費補助 123件 生ごみ堆肥化や減量方法に精通した団体に委託し、生ごみ減量のサポートや体験型講座を実施 講座実施 55回、サポート 318回 佐賀市清掃工場や佐賀市清掃工場南部中継所に持ち込まれた剪定枝の一部をチップ化し、マルチング材や堆肥の原料として無料で配布 3.24 t 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	8,448				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
家庭系生ごみ排出量					t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
16,132	15,308	15,073	14,884	14,621	

成果指標②					単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量					g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
646	615	611	608	605	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
市民一人ひとりがごみ減量の取り組みを日頃から意識して実践してもらえるよう、ごみの分別やリサイクルについての広報・周知を徹底する。家庭用生ごみ処理容器を利用する市民（特に新規）に対しては、利用を継続できるよう、随時委託団体によるサポートを行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみ減量啓発事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみの分別や減量について出前講座や広報媒体を通じて市民に周知することで、市民の意識高揚を図る。ごみカレンダー・分別表を配布し、ごみの適正排出を促す。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発 42件（市報26件、生活情報誌5件、新聞記事3件、テレビ・ラジオ8件） ・ごみカレンダー・分別表配布 市内約10万世帯 ・職員出前講座 16件 ・高校生エコチャレンジ 市内私立校4校（参加者582人） ・買物袋持参率調査 市内10店舗（持参率76.3%） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,244				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
54,618	52,090	51,728	51,511	51,034		

成果指標②						単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量						g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
646	615	611	608	605		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
様々な広報媒体を活用し、家庭で出来るごみ減量方法やリユースについて情報提供するとともに、ごみ分別やリサイクルについての周知広報を徹底する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有料指定袋事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみを排出する際に利用する指定袋を有料にすることで、ごみの排出量に応じた費用負担となることから、ごみの減量やリサイクルの推進につなげる。 ごみ処理施設の統廃合に伴い、指定袋の仕様について一部を旧佐賀市のものに統合しており、「諸富町及び三瀬村」の7種類と、「その他の地区」で9種類の合計16種類を取り扱っている。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	○指定ごみ袋の製造枚数：13,992,000枚（佐賀市合計） ○指定袋取扱店数：426店（支店、自治会等を含む）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	184,831				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源化率						%
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
18.6	18.7	18.8	18.9	20.0		

成果指標②						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
54,618	52,090	51,728	51,511	51,034		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
将来的な指定袋のあり方について、「仕様の統一」とごみ処理費用に応じた「適正な価格設定」の検討を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	資源物集団回収奨励事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	自主的に資源物回収運動を実施している団体に対して奨励金を交付することにより、佐賀市のごみの減量および資源の有効利用を図る。				
事業の対象者	佐賀市内の営利を目的としない住民団体（例：自治会、子ども会、婦人会等）				
令和2年度主な活動実績	登録申請団体209団体 奨励金交付団体（集団回収実施団体）188団体 回収資源物量854,957kg				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,565				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物回収量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
855	900	1,000	1,000	1,000		

Year	Target	Actual
R2	900	855
R3	900	900
R4	1,000	900
R5	1,000	900
R6	1,000	900

成果指標②						単位
回収実施団体数						団体
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
188	190	200	200	200		

Year	Target	Actual
R2	190	188
R3	190	190
R4	200	190
R5	200	190
R6	200	190

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
コロナ感染等の影響もあって資源物回収が出来なかった団体へも状況を見ながら資源物回収の実施を働きかけていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	容器包装リサイクル法関連業務	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民から分別収集した容器包装廃棄物のうち、ペットボトル、ガラスびんを国の指定法人に引渡し、再商品化することで、リサイクルの推進を図る。				
事業の対象者	市民が排出し、分別収集した容器包装廃棄物（ペットボトル、ガラスびん）				
令和2年度主な活動実績	○引渡数量実績 ※背振グリーンセンター処理分（三瀬・諸富）を除く ・無色びん：566.42 t ・茶びん：509.86 t ・その他びん：264.56 t ・ペットボトル：493 t				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,062				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
ペットボトル引渡数量					t
R2 実績	R3 目標実績	R4 目標実績	R5 目標実績	R6 目標実績	
493	501.1	514.1	527.5	541.2	

成果指標②					単位
びん類引渡数量（無色びん+茶びん+その他びん）					t
R2 実績	R3 目標実績	R4 目標実績	R5 目標実績	R6 目標実績	
1,341	1298.7	1272.1	1246	1220.6	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
容器包装リサイクルの推進のためには、国が定めた分別基準に適合するよう、異物除去を徹底する必要があるため、市民への分別ルールの周知広報に努めていく。 また、プラスチック資源循環促進法の施行により、容器包装廃棄物の量にも影響が生じると思われる。社会情勢の変化等も加味しながら、適切な分別収集計画の策定に努め、容器包装廃棄物のリサイクル推進を図っていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	事業系ごみ減量・リユース推進事業	事業期間	平成 11 ~ 令和 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	事業系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	事業系ごみ排出者責任の原則を市内の各事業者を理解してもらうことで、ごみの排出抑制とリサイクルに対する意識の向上を図り、事業系ごみの減量化及び資源化を図る。年間36トン以上の一般廃棄物を排出する「多量排出事業者」には、廃棄物減量推進責任者の選任と廃棄物減量計画書の提出を義務化すると共に、研修会や訪問指導を行うことで、事業系ごみの排出抑制とリサイクル意識の向上を図る。				
事業の対象者	市内事業者				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象の多量排出事業者数 67件 ・事業所訪問数 14件 ・ごみ減量セミナーの実施 1回（参加者22名） ・食品ロスゼロ推進店の新規登録 3件（合計40件） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	88				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
事業系ごみ排出量					t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
29,245	30,163	29,452	28,838	28,088	

成果指標②					単位
減量計画実践等により排出量を減量した事業者数					事業所
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
38	40	40	40	40	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
令和2年度はコロナ禍の影響もあり、事業系ごみ排出量が大幅に減少し、結果としてごみ処理基本計画の目標を達成している。しかしながら、この状況は一過性のもと思われるため、市内排出事業者に対する分別指導を徹底するとともに、リサイクル方法等の情報提供にも努めていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	不法投棄防止対策経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	廃棄物の不法投棄は、環境を汚染したり、景観を損なうなど生活環境を悪化させているため、ごみステーション等に不法投棄された廃棄物を処理業者に委託して処分する。また、道路等で死んでいる小動物の回収を行い、環境の保全を図る。				
事業の対象者	市内住民				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 不法投棄されたテレビなど12台を収集運搬業者に委託して処分 道路等で死んでいる小動物を回収した。(土日は業者に委託) 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,163				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
不法投棄物や小動物の適正収集						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100	100	100	100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
不法投棄されたものや小動物について、適正に処分、回収がなされている。これからも適正処分・回収にむけて、委託業者へ指導していく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

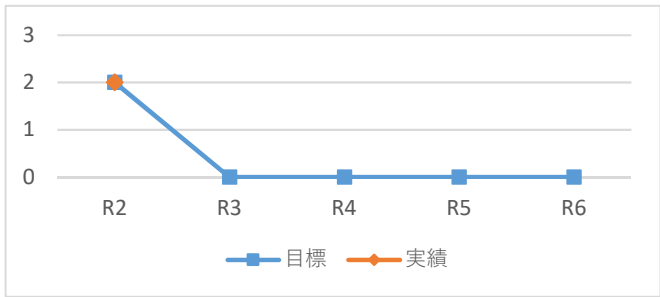
事務事業名	ごみステーション適正管理経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	各家庭からごみステーションに出された再生資源物について、市または市の委託を受けて収集運搬を行う業者以外は収集運搬してはならないが、換金目的で持ち去りを行う者がいる。再生資源の持ち去りを未然に防ぐ目的で希望する自治会に監視カメラを設置している。				
事業の対象者	市内住民				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 再生資源物持ち去り防止を防ぐため、希望する2つの自治会へ監視カメラを設置している。 市民等からの情報提供をもとに、資源物持ち去り防止のパトロールを自実施した。また、希望する自治会へ監視カメラを設置することにより、持ち去り者の特定につなげ、注意を促した。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	799				
うち佐賀市の負担額	0				

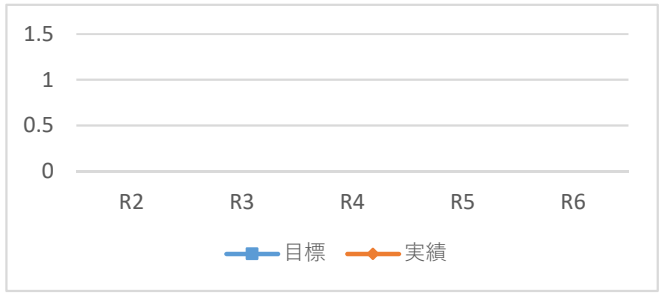
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
再生資源物の持ち去り件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2	0	0	0	0		



年度	目標	実績
R2	0	2
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
適正処理されることを期待して排出された資源物の持ち去り行為は、ごみの分別ルールを守っている市民の皆さんの環境に配慮したりサイクル意識を著しく低下させることも懸念される。資源物持ち去りについて、今後もパトロールの強化や自治会と協力して、持ち去り者「0」を目指す。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	事業系ごみリサイクル推進事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	事業系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場に搬入される事業系ごみの大半は、生ごみや紙おむつ等が占める。これらの減量に向けて、排出事業者が自己処理を行うための「生ごみ処理機導入費補助制度」の活用や「食品リサイクル産業支援のための補助制度」の検討、さらには「紙おむつのリサイクル」に向けた研究等を行う。				
事業の対象者	市内に事業所を有する事業者				
令和2年度 主な活動実績	○事業系ごみ減量セミナーの開催<10月28日> ・内容「佐賀市の事業系ごみの現状」や「生ごみ処理機導入費補助制度」など ・参加事業所18事業所、参加者22名 ○セミナー開催後の導入に向けた事業所訪問等 14事業所				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,760				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
生ごみ処理機による処理量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
9	14	14	14	14		

成果指標②						単位
生ごみ処理機導入件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1	2	2	2	2		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
事業系ごみ減量セミナー等を実施しながら積極的に事業者へ生ごみ処理機導入を働き掛ける。また、食品リサイクル業の創業に向けては、事業者の相談等に応じながら適切な情報提供に努めるとともに、引き続き支援を行っていく。さらに、紙おむつのリサイクルについては、環境省から助言を得ながら研究を進めていく。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	次世代型バイオ燃料実用化事業	事業期間	平成 30 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	再生可能エネルギーの普及促進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	従来、廃食用油から精製していた軽油の代替燃料は、現在、市場において主流となっているコモンレール式ディーゼルエンジンには適応せず、使用できる車両が減少してきていた。このため、高品質のバイオディーゼル燃料（HiBD）を導入・精製し、市営バスやごみ収集車等の燃料として利用することで脱炭素社会へ貢献する。また、「付加価値の創出」や「廃食用油を原料としたバイオジェット燃料の精製」などの民間研究について支援等を行う。				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内の事業所				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内回収BOX設置数及び回収量 99か所 74,514ℓ ・市内回収事業所数及び回収量 156か所 49,047ℓ ・啓発用リーフレット作成 6,000枚 ・民間事業者との共同研究 1件 ・バイオジェット燃料民間研究のための、廃食用油の提供 640ℓ ・ファミリーマートと協定書を締結し、コンビニエンスストア店舗（3店舗）で使用した使用済み食用油の回収開始 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	492				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
廃食用油回収量						ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
123,561	125,000	150,000	170,000	200,000		

年度	目標	実績
R2	125,000	123,561
R3	150,000	
R4	170,000	
R5	200,000	
R6		

成果指標②						単位
高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）使用量						ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,928	26,000	90,000	102,000	120,000		

年度	目標	実績
R2	26,000	1,928
R3	90,000	
R4	102,000	
R5	120,000	
R6		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等

HiBD精製装置を導入して間もない時期であり、精製燃料の成分分析や運転に関する各種調整、検証等を行っている段階にあることから、精製量及び使用量は共に少ない状況にある。今後は、HiBDの品質確保及び精製プラントの安定稼働に努め、早期に回収した廃食用油の全量を精製し、目標の達成を目指す。また、使用車両（市営バス、ごみ収集車等）の台数を増やすことでHiBDの使用量増加につなげるとともに、新たな利活用方法の検討・研究も行っていく。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	テイクアウト用レジ袋削減事業	事業期間	令和 2 ~ 令和 2 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策の1つである、三密を回避した料理のテイクアウトに取り組む飲食店等に向け、テイクアウト用の紙袋を配布することで、新型コロナウイルスの影響で営業時間短縮を要請され、経営が厳しさを増す店の経費削減につなげる。</p> <p>また、テイクアウト用紙袋を、利用後、雑紙分別用の紙袋として利用してもらうことで、ワンウェイ容器の削減による市民の3R推進意識の高揚を図るとともに、レジ袋削減による海洋プラスチック問題への対応にも繋げ、循環型社会及び脱炭素社会の構築を目指す。</p>				
事業の対象者	市内で食品のテイクアウトや小売販売を実施する事業所				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	5,247				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
紙袋配布事業者数					事業所	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
208						
活動実績②					単位	
紙袋配布枚数					枚	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
121,600						

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

事業者アンケートを実施したところ、各店舗における「配布した紙袋」の使用頻度は高く、テイクアウト利用客からも好評を得ている。令和2年度の一次募集で残った在庫は、令和3年度に二次募集を実施し、継続して受付と配布を実施している。（R3.6月末時点での配布実績 計371件、230,800枚）

令和3年度 事務事業実績報告シート

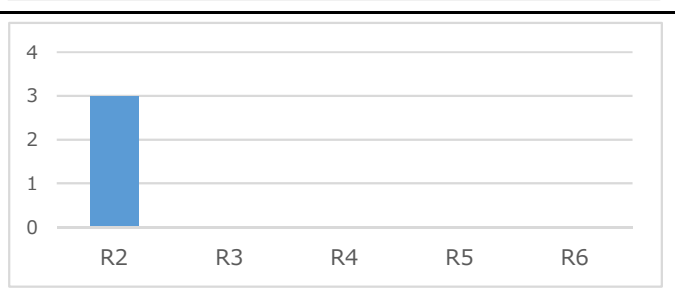
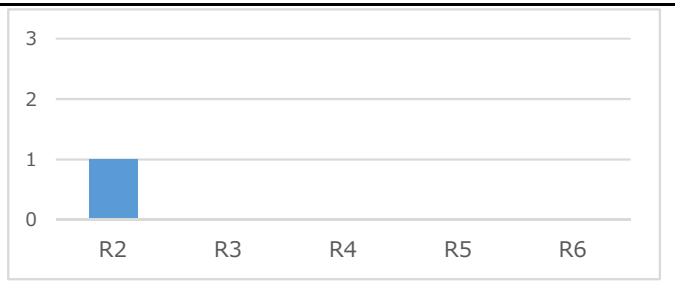
事務事業名	廃食用油リサイクル啓発事業	事業期間	令和 2 ~ 令和 2 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<p>「次世代型バイオディーゼル燃料」の原料である「廃食用油」の回収量を増加させるための広報啓発を行い、「地域資源循環」及び「脱低炭素社会」の実現につなげる。</p> <p>SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の4つの目標に寄与。</p> <p>①廃食用油を再生可能エネルギーとして利用 ②新しい技術の基盤づくり ③廃食用油をリサイクルし、市営バスやごみ収集車等の燃料として利用 ④バイオマス資源の有効活用による、二酸化炭素削減</p>				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内の事業所				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	1,353				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
ラッピングバス作成					台
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
1					
活動実績②					単位
広報誌等への掲載					件
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
3					



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

広報誌へ関連情報を掲載したことにより、新規の廃食用油回収事業所を確保できた。また、廃食用油再生燃料H i B Dを燃料として運営している「市営バス」にラッピングによる広報を行うことで、市内の広範囲へ効果的な情報発信ができる。今後も継続的な広報を続けることで、廃食用油の回収量増加につなげる。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	エコプラザ管理運営事業	事業期間	平成 15 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	中村 孝幸
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市の環境学習の拠点施設であるエコプラザにおいて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを実施する。それにより廃棄物の発生抑制や再利用、廃棄物の適切な分別などに関するの市民の意識を向上させ、豊かな自然を守るとともに、ものを大切に、環境に配慮した生活スタイルを身につけさせる。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	3Rを始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを行った。 施設見学・視察：115団体（5,637人）、会議室利用：197団体（6,524人） 環境啓発に関する講座：95回（参加者542人） 環境に関するイベント（エコマーケット等）：15回（参加者2,266人）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	17,515				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
総来館者数					人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	
27,883	30,000	32,500	35,000	37,000	

成果指標②					単位
各種講座・イベント参加者数					人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	
2,808	4,000	5,000	6,000	6,500	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
今後ともエコプラザが目指す「集う」「学ぶ」「結ぶ」のコンセプトのもと、気軽に来館できるイベント等の実施や、家庭での実践行動に繋がるような各種講座を開催する。また、エコプラザ利用者や利用団体等を相互に繋げることで、地域課題や社会課題の解決に繋がるように努める。なお、令和2年度はコロナ禍の影響により、来館者が大幅に落ち込んだ。令和3年度も影響は続くと思われるが、感染対策を講じたうえで、少人数で参加できる講座を中心に実施するなど、社会情勢にあわせて工夫した運営を行っていく。